

質疑応答(要旨)

ご理解いただきやすいように表現の変更や加筆・修正を行っている箇所があります。

- Q: 第1四半期の不採算案件は全体で約6億円、うち広域ITソリューションで約3億円とのご説明でしたが、案件の内容やカットオーバーの時期について教えてください。また、残りの約3億円は他セグメントにおける小さなものの積み上げでしょうか。
- A: 約3億円は既存の金融系のお客様向け新規案件1件によるものです。手戻りが生じたことによって品質強化が必要となったことが原因ですが、現在はしっかりと対策を打った上でリプランをして対応中です。カットオーバーは来年の春頃を予定しています。なお、残りについてはご認識のとおりです。
- Q: 約3億円の不採算案件は、広域ITソリューションですので、インテックで発生したのかと思います。インテックは前期も大型の不採算案件を発生させましたが、品質強化等の対策について進捗状況をご説明下さい。
- A: 今回の不採算案件が発生したグループ会社はご指摘のとおりであり、継続的な発生でご心配をおかけして申し訳ありません。同社の品質管理については、5月の決算説明会でもご説明した通り、当社を含めて体制強化等の対策を進めているところです。こうした過程で今回の案件を検出するに至り、手当てをした次第です。不採算案件の抑制を実現できるよう、あらためて引き締めてまいります。
- Q: 業績・受注状況とも前年同期比減少と厳しかった金融ITとBPMについて、業況を聞かせて下さい。金融ITは、主にクレジットカード系根幹先顧客等における大型開発案件のピークアウト影響によるものだと思いますが、その影響は想定通りだったのでしょうか。また、BPMは、業界全体が低迷する中で採算性を意識した選別受注等を進めているのかと思いますが、この第1四半期の結果は想定と比べてどうだったのでしょうか。
- A: 金融ITについては、概ね想定通りの着地でした。大型案件の反動減影響については、売上高で言えばこの第1四半期で約20億円が生じましたが、これは上期50億円程度の期初想定に沿ったものです。受注高の減少も、受注計上のタイミングもあってのことですので、ご心配いただく必要はありません。BPMについては、トップラインが伸び悩む状況の中で、前第2四半期からのコストコントロールを続けていることで前年同期比増益を確保することができました。今後についてはトップラインの成長が不可欠だと認識しており、もう少し時間を要しますが、対応をしっかりと進めてまいります。
- Q: 中期経営計画における成長の牽引役として掲げたオフリングサービスについて、当第1四半期は着実に伸びたように理解していますが、増益要因は何だったのでしょうか。また、第2四半期以降の見通しについて教えてください。
- A: オフリングサービスは、当期ならびに中期経営計画においてしっかりと伸ばしていくセグメントですので、第1四半期で結果を出せたことは良かったと思っています。増益要因については、大きく海外、国内、そして国内の中でも新規連結分の3つに分けてご説明いたします。まず、海外は16億円の増収、その中で営業利益は改善途上ということで1億円を下回る程度の増益でした。次に、国内の既存事業は21億円の増収、うち決済が約3億円、デジタルマーケティングや経営管理といったエンタープライズの分野が約7億円、クラウドのプラットフォームが約8億円と、全体的に伸びました。これらの増益は概ね増収に合わせたものとなっていますが、この中でも「PAYCIERGE」を中心とした決済の利益改善効果が少し強めに出了ました。なお、「PAYCIERGE」については特定のサービスに依らず幅広く、SI型ビジネスも含めた全体で伸びています。最後に、国内の新規連結効果は説明会資料にも記載の通り、2社で25億円の増収、のれん償却後の営業利益で3.5億円の増益です。特に日本ICSにおいては業績が好調でした。第2四半期以降についても、日本ICSによる新規連結効果はなくなりますが、受注高も非常に強く積み上がっていますので、まずは上期計画の達成に向けてオーガニックでのしっかりとした成長は持続可能だと思っています。
- Q: あらためて不採算案件についての質問です。第1四半期に発生した不採算案件は期初想定には含んでいなかったのかと思いますので、通期の不採算案件に対する最新の見通しを教えてください。
- A: 不採算案件については、通期で10億円以内に抑える計画を立てていますので、第1四半期における6億円は非常に多く発生してしまったと認識しています。計画達成を目指す考え方に変わりはなく、あらためて不採算案件の抑制に努めてまいります。なお、現時点では今後発生することがないように必

要な対処はしてあります。

- Q： 大型案件の反動減や不採算案件はあったものの、会社全体としては悪くない第1四半期決算だったという理解でよいでしょうか。また、ここまでご説明いただいた内容を踏まえ、今後の見通しについて確認させて下さい。今回、業績予想を変更していないので、第2四半期の業績は前年同期比で概ね横ばい、下期以降は増益に転じる見通しだと受け止めました。そのような理解でいいのか、その上で第2四半期や下期以降の業績回復の見通しについて、コメントできることがあればお願いします。
- A： 第1四半期について、不採算案件が前年同期比3億円増加したことに関しては、それがなければ増益に転じていた点からもやはり残念なことであり引き続きしっかりと対応していく必要があります。しかしながら、会社全体としては説明会の冒頭でも申し上げた通り想定線での着地であり、受注高についても開発受注高が前年同期比5%増加したことが全体受注高を押し上げましたので、上期計画をしっかり達成できる進捗であったと認識しています。第2四半期においても、特に産業ITや広域ITソリューションを中心に新規受注等が見込まれる等、受注積み上げを進めていくことで、通期計画の達成をより確かなものにしていきたいと考えています。

以 上